

会長ごあいさつ

別府大学国際経営学会

会長（国際経営学部長） 関 谷 忠

別府大学国際経営学部は、グローバル化が進展する中、別府大学設立100周年を機に2009（平成21）年に創設され、6年が経過しようとしています。この間、「国際経営コース」では世界を相手に活躍する力をもった人材育成を、「会計・税理士コース」ではグローバル時代の会計人育成を、「観光・地域経営コース」では公務員・地域づくりの人材育成を目指し、教職員一丸となって学生指導と教育・学術研究に力を注いでまいりました。おかげさまで、多くの学生が授業の単位取得とともに、TOEIC、販売士、ITパスポート、FP、日商簿記検定、国際会計検定、旅行業務取扱管理者などの資格を取得しています。また、最大の目的である就職状況は、キャリア支援センターを中心とする充実した就職対策講座などや各ゼミナール担当教員のきめ細かな個別指導により、2013（平成25）年3月卒業の第1期生は94.0%、2014（平成26）年3月卒業の第2期生は98.4%と高い就職率（就職者／就職希望者）を実現しています。本年卒業の第3期生もこれに勝るとも劣らない成果をあげつつあります。

こうした教育・就職実績を支える教員は16名の専任教員のうち、8名が博士号の学位保持者であり、現在、若手教員を中心に6名の教員が博士論文作成に取り組んでいます。2年後には、国際経営学部では、ほぼ全員の教員が博士号取得者となり、名実ともに高度の専門知識をもった教員集団となります。

日本経済はアベノミクスによる金融戦略、財政戦略に加えて本格的な成長戦略により、ようやく長引くデフレから脱却しようとしています。新しい時代にグローバル化は避けて通れません。国際社会に飛び出して活躍する人材と共に、「地方創生」のため地域に根ざして、グローバル化、活性化のために活躍する人材育成が国策上も喫緊の政策課題となっています。

国際経営学部ではこうした時代の変化や要請に積極的に対応するため、大幅な開講科目の見直しを行い、理論と実践のバランスある教育を目指しています。2014（平成26）年4月からは大分経済同友会のご支援による「トップマネジメント講話」の開講により、学生は地域のトップ企業をはじめとした経営者の皆さまの生の話を聞く事が可能になりました。また九州国税局、九州財務局大分財務事務所、大分県の幹部の皆さまのご講演により、現在の行財政上の課題にも理解深めることが出来るようになりました。こうして得た知識を基盤して、これからはこれまで以上に大学を出て、学生を地域社会に連れ出し、地域の皆さまや経営者、諸団体、諸機関との交流を図っていくことが重要だと考えています。

こうした観点から、学生・教員と地域の皆さま方と win-win の関係で継続的に良いお付き合いをさせていただけるよう、我々教員は専門分野の学術研究に一層力を入れ、地域活性化の一助となるよう努力をしております。

地域の皆さま方のこれまでの積極的なご支援に感謝申し上げますとともに、これからの更なるご支援とご協力をお願いいたしましてごあいさつとさせていただきます。

2015（平成27）年3月